

きのと小だより

燦

合言葉：みんなで力を合わせて、子どもの方をしっかりと向いて、
大事に大事に育てましょう。 平成28年3月1日 19号

同じするなら よい仕事を

校長 金子 智

の気持ちをたくさん込めた温かい会でした。

行きつ もどりつ、春はすぐそこです。桜のピンクも、たんぽぽの黄色も間もなくです。温かい陽ざしも間もなくです。

- 2月26日、児童会が「六年生を送る会」を行いました。この会の牽引役は5年生です。

六年生を送る会の前日の職員が交代で書く日誌に、「六年生を送る会に向けて最後のリハーサルを4年5年生の子どもたちが合同で行っていた。次年度のきのと小をリードしていかねばならない子どもたちだ。練習を積むたびにどんどん意欲的になっていくのがわかる。明日が楽しみである。」とありました。「練習を積むたびにどんどん意欲的になっていくのがわかる」、まさにその通りでした。

6年生入場のエスコート役は1年生、始めの言葉は2年生、3年生は6年生の紹介、思い出メッセージ披露は4年生の役目、ゲーム担当は5年生、みんなで力を合わせてやりました。最後に6年生がお礼の劇を見せてくれました。1年生から6年生までのことを寸劇にしたものでした。さすが6年生、なりきっての演技、引き込まれました。

この日までに5年生の立てた計画に従い、1年生はメダルを作り、2年生は6年生の似顔絵を描き、3年生は6年生にインタビューし紹介文を作り、4年生は看板を作ってきました。

子どもたちは自分から進んでやっていました。意欲的にやってきました。「意欲的に行っている」姿は「笑顔で望まれた以上を行っている」姿です。

「六年生を送る会」はそうやって6年生への感謝

- 所用があって上京しました。

新宿駅の構内で清掃員の方が働いていました。構内はたくさんの方が行き交っています。この清掃員の方は行き交う人にぶつからないように気をつけながら、ほうきを動かしゴミをちりとりに入れては移動し、入っては移動していました。実にテキパキとした身のこなしでした。

大きな円柱の柱のところに来ると、まわりを見回し、通行の妨げにならないことを確認してほうきとちりとりを床に置きました。そして腰のベルトにつけていた小さな刷毛のようなほうきを手にしてしゃがみ込みました。しゃがみ込んで、柱の付け根のひび割れの中に詰まっているゴミを掃き取り始めました。サッサ、サッサと手が動きます。

腰のベルトに刷毛のようなほうきを用意してきたのですから、この柱のひび割れのところはゴミがあることがわかっていて、それを今日はきれいにしようと予定してきたということです。毎日毎日どこにゴミがあるのか探しているということです。「他からさせられている」のではなく「自らする」姿です。「笑顔で望まれた以上を行っている」姿です。見ていて清々しい気持ちになりました。

子どもたちが大人になって仕事を任されたとき、きっとこの方のように、「自らする」姿勢で行うことでしょう。「同じするならよい仕事を」そう思える人になるに違いありません。

「弥生三月、雛祭り」梅が二輪咲きました。